27. 骨シンチグラム像 ——乳癌術後の胸骨周囲の非対称性集積について

小野　慈　朝倉　浩一
田之畑一則　中森　昭敏
松井　謙吾
（横市大・医・放）
田中　利彦　野田　丈子
山本　洋一
（神奈川県成人病セ・放）

骨シンチ読影に当って，胸骨および周辺の像はときとして骨転移とまぎらわしい所見を呈する．胸鎖関節部，第一肋骨軟骨部に非対称的に集積する所見は乳癌術後にみられることが知られているが，その詳細については追求されていない．術後の経過との関係，術側と集積側との関係を調べたので報告する．

^{99m}Tc-MDP 10～18 mCi 静注 4～6 時間後に全身スキャンを行い，のちシンチカメラにてスポット像を撮像した．骨転移のない乳癌症例 223 例，289 回のスキャン像を調査対象とし，両側乳癌は除外した．シンチカメラでの胸部前面像を観察し，非対称性の明確な症例⊕．非対称性はあるが集積程度の軽い症例⊕．対称的であった症例⊖．に区分し，乳切側との関係，乳切後の時間との関係を調べた．

⊕の割合は，術前 0 %に対し，術後 1 カ月以内，56%，1 カ月から 3 カ月まで 57%，6 カ月まで 57%，1 年 26%，2 年 19%，5 年 16%，手術後 5 年以上15%と，手術からの時間経過により異った割合がみとめられた．

右乳切，非対称性集積右⊕の割合は25%，左乳切，集積左⊕の割合は 20%，反対側集積は 3.8%にみられた．今回の検討対象の総計では 26.3%に非対称性の集積がみられた．以上の結果は，骨シンチ読影時の参考資料として役立つものと考える．

28. 骨シンチグラムで肋骨に見られた陽性像の検討

彌富　晃一　小笠原　幹
中川　俊夫　中川　清
福士　政広　中敷領勝士
（都立駒込病院・放）
木下　文雄
（都立大久保病院・放）

最近シンチカメラの進歩，放射性医薬品の改良もあり，骨シンチグラム診断能が著明に上り，レントゲン写真で発見する前に骨転移等を指摘できるようになって来た．

この一方鋭敏すぎるため困ることもありそうで，異常集積を指摘したあと，われわれのレポートを受けた主治医がこれをどう評価しているか，またその結果がどうであったかが知りたくて検討を加えてみた．

症例は前回の会でわれわれが発表した，シンチパック 230 によるレポートおよび，ファイルシステスを始めた，1978年 4 月 1 日から1978年12月28日までの 8 カ月間に行った，骨シンチグラム，365 例の中で肋骨“のみ”に陽性像を認めた，32例である．

32例の疾病別分類は乳癌20例，肺癌 5 例，その他 7 例であった．

この32例の中で切除で転移，または全身骨転移の前徴であったもの 6 例，X-P 上または切除で肋骨骨折としたもの 9 例，乳癌で術後に表れ次第に消失したもの 5 例で，残り12例が経過観察中である．

症例も少く，また経過を見る時間が少いため結論は出せないが，印象として，肋骨で 2～3 個縦に並んだ陽性像は骨折の可能性がある．

肺癌の例で肋骨の異常集積は 5 例中 3 例が癌陽性であったので注意する必要がありそうである．乳癌の場合，経過観察中に認めた肋骨陽性像は集積の程度にもよるが，切除等は急がないでよさそうである．

Presented by Medical*Online